

世田がや 町総連だより

第14号

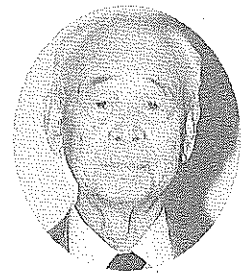
発行 世田谷区町会総連合会
世田谷区若林4-31-9
ポライト第2ビル2F
☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 安田 憲 吾
編集情報誌編集委員会
編集委員長 渡 辺 三 郎

世田谷区町会総連合会 白石 博会長勇退 後任会長に安田憲吾氏

世田谷区町会総連合会の平成13年度総会は7月19日に開催され、役員任期満了に伴う改選が議案として提出されました。

白石 博現会長は高齢を理由に勇退を申し出られたため、常任理事会、理事会の審議を経て、世田谷地域町会連合会の安田憲吾会長が次期会長に推薦されていましたが、当日の総会で満場一致で可決され第四代安田会長が誕生し、白石前会長には引き続き最高顧問として総連合会の運営にご協力を願うことになりました。



会長就任のご挨拶

世田谷区町会総連合会会長

安田 憲 吾

この度、私は白石会長の辞任にともない世田谷区町会総連合会会長に就任することになりました。

会長に就任した以上はこれまでの経験と白石会長の情熱を生かし、皆様のご支援とご指導をいただき、会長として万全を期してまいりたいと思っておりますので何とぞ宜しくお願い申し上げます。

現在世田谷区内には一九八の町会自治会があり、世田谷、北沢、玉川、砧、烏山の各地域に分かれ、それぞれ地域町会連合会として活動しております。
この五地域の連合体が町会総連合会である。

町会総連合会の目的は各単位町会の自主自立性を尊重しつつ、相互の連絡協調を行うことにより、区内町会の円滑な運営と発展を図り、もって八十一万五千人の区民生活の向上と福祉の増進に寄与することです。

そのためには区役所、警察、消防、その他の行政機関と連絡を密にし、区民生活の安全と福祉の向上に努めてまいりたいと思っておりますので、会員各位の絶大なご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。長就任の挨拶といたします。



会長辞任のご挨拶

世田谷区町会総連合会

最高顧問 白石 博

私 平成九年より十三年七月まで二期四年世田谷区町会総連合会会長の要職を務めさせていだいておりましたが、この度一身上の都合により辞任いたすことになりました。

後任には世田谷地域町会連合会会長の安田憲吾さんが、七月十九日の総会で承認されました。

つきましては、四年間在任中は皆様にご方ならぬご支援ご協力をいただき、大過な

く大任を果たすことができましたことを心より深く御礼申し上げます。誠に有難うございました。

後任者安田さんは人格も立派で識見も備えられ、加えて町会幹部の経験も十分で申し分なき御人です。

どうか私に寄せられたご支援ご協力を新会長に賜りますよう、皆様よろしくお願い申し上げます。

なお、二、三引き継ぎを申し上げ、ご参考にしていただきたいと思います。

一 今まで町総連は定まった事務所がありませんでしたが、二年程前に立派な事務所を定めました。このことは事務局より既にお知らせしてありますが、折角の事務所ですので各町会長さんはじめ、多数の方がご利用されることを願います。

二 「町総連だより」ですが、区内全域の代表町会長さんによる「町会長」の苦労話の特集記事は、一応三回で終わりましたが、町会の運営には大変参考になったとの評もありました。

また、今年は「教育問題について」の懇談等を収録しましたが、今後は新しい会長の下で適切な企画をたてられることを望みます。

次第です。
終わりに、新会長を迎え町会総連合会の益々の発展と皆様のご健康を祈念いたします。

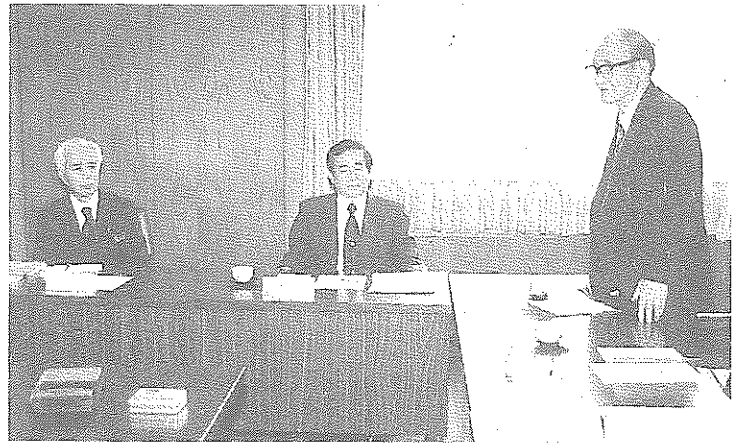
新 役 員

	氏 名	所 属
最高顧問	三 田 隆 真	玉川地域町会連合会顧問
	白 石 博	北沢地域町会連合会顧問
会 長	安 田 憲 吾	世田谷地域町会連合会会長
副 会 長	宇田川 豊次郎	北沢地域町会連合会会長
	渡 辺 三 郎	玉川地域町会連合会会長
	高 橋 重 信	砧地域町会・自治会連合会会長
	倉 本 俊 幸	烏山地域町会自治会連合会会長
常任理事	神 保 充 夫	世田谷地域町会連合会副会長
	土 橋 賀	世田谷地域町会連合会副会長
	後 藤 正 三	北沢地域町会連合会副会長
	高 橋 兼 城	北沢地域町会連合会副会長
	菅 田 權 造	玉川地域町会連合会副会長
	飯 田 恭 次	玉川地域町会連合会副会長
	額 賀 一 哲	砧地域町会・自治会連合会副会長
	永 井 秀 雄	砧地域町会・自治会連合会副会長
	長 島 清 一	烏山地域町会自治会連合会副会長
高 橋 和 夫	烏山地域町会自治会連合会副会長	
会 計	河 原 春 雄	世田谷地域町会連合会監事
	白 井 昭 一	玉川地域町会連合会会計
監 査	恩 田 照 安	北沢地域・大原南町会会長
	駒 井 澄 子	砧地域・フレール西経堂自治会会長
	甲 斐 円治郎	烏山地域・千駄山町会会長

対談

新教育長に抱負を伺う

平成13年5月30日



出席者

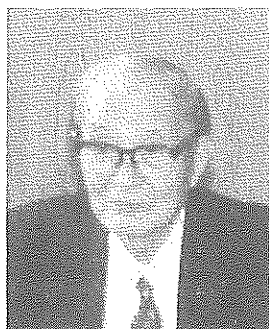
- ◇区側
- 小野 正志 教育長
- 中村 弘 教育次長
- ◇町会総連合会側
- 白石 博 会長
- 安田 憲吾 副会長
- 渡辺 三郎 副会長 (編集委員長)
- 高橋 重信 副会長
- 倉本 俊幸 副会長
- 清水庄太郎 編集委員
- 宗 晴 編集委員
- 板谷 英宣 編集委員
- 宮崎 春代 編集委員
- 玉井 良助 編集委員

んなにたくさんの方の委員の方
が来られたことはないの
ですけれども。(笑)

基本的には教育長さん
のお話を伺うことので
ざいますので皆から「わ
わあ」質問するということ
はあまりないと思います
で人数のほうのアンバラ
スはお許し願いたいと思
います。

それでは町総連会長の
ほうからひとつご挨拶を
お願いします。

白石町総連会長



おはようございます。

今日はおかねてお知らせ
し上げましたように『町
総連だより』の編集でござ
いますが、過去にいろいろ
重要な問題を取り上げて
大変にご好評を得ている
わけでございます。

司会 (渡辺町会総連合会副
会長・編集委員長)

本日は早朝からどうも有
難うございます。ご承知の
『町総連だより』の巻頭を
このところ三回は座談会
で占めてまいりました。

その前は区長さんとの対
談、あるいは東京都議会議
長との対談といういろいろ
そのときのトピックスで紙
上を埋めていたのですけれ

ど小野教育長が十二月一日
着任されて、地元の玉川の
ほうからおいでのになったも
のですから、そのころから
新教育長としてのご抱負等
のお話を伺いたいというこ
とをお願いしておりました。

なかなかお忙しく直接
お目にかかる機会がありま
せんでしたけれども今日、
時間をセッティングしてくだ
さいます。まして有難うござ
います。

小野教育長
こちらこそ有難うござい
ます。

司会 (渡辺) 一応五人の
地域町連の会長他、編集委
員の全員に今日こういう催
しがあるということをお知
らせましたら、大変皆さ
ん関心が深いというか、教
育長さんの人気が高いとい
うか、たくさん委員の方
が集まりました。今までこ

特に最近はその流れというところもあるかも知れませんが本場に教育の問題がクローズアップされております。

これが一番政治の問題であり、行政の問題であり、町の人の問題ではないかなとこういうふうでございます。

今日はお忙しいところを時間をさいていただいてわれわれのために教育長さんにおいていただきました。

そういうことでひとつ膝をまじえてひとつ教育の問題の解決というわけにはいきませんけれど、そういう問題について検討していつて、町は町なりに行政は行政なりに力を尽くしてまいりましょうとこういう考え方でおります。

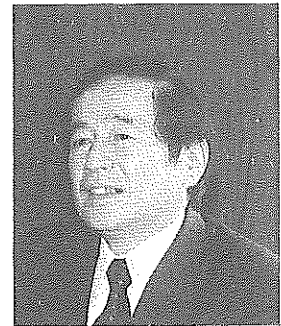
お忙しいところをおいでいただきましていろいろとご指導ご鞭撻をいただきたいと思いますが、私たちにいろいろと町に関する問題、そういうこともお話し申し上げてご理解をいただき

たい。

特に一九八の町会、自治会がこういう問題に取り組んでいくというのは現在の町会の使命の中心ではないかとこんなふうに考えられますので皆さんもよろしくご意見その他を出してください。

とくに現在町で一番取り上げられているのが防災に関する学校協議会とかいろんな問題がございますが、それも校長先生のご意見によつて取り扱ひ方がまちまちになっておまして、それはそれなりにして現実に即した内容になろうかと思ひますが、そういう問題も多々ございまして迷つているところもございまして、よろしくそういう困難も含めてひとつご指導いただき、われわれのぎつくばらんな意見を出して少しでも教育に役立つような会議にしていきたいと考えておりますのでよろしくどうぞ。司会(渡辺) では教育長どうぞ。

小野教育長



では一言お礼のご挨拶を申し上げます。

今日は早朝から、こちらから伺わなければならぬところをわざわざおいでいただきまして本当に有難うございます。

さて、私は玉川総合支所に三年八か月おりました。しかし玉川だけでなく他の地域の町会連合会の会員の皆さまにもいろいろな面々で助けていただきまたお世話になりました。お陰様で有意義な時間をすごすことができました。今まで四〇年近く仕事をしていた中でも一番大切な時期だったと思っております。また今日は各役員の皆さまが、私たちの教育という問題、これにつきまして熱

意を示していただき、またお忙しい中お出でいただき感謝申し上げます。

話の中でいろいろ出てくると思いますが、とにかく教育は単にひとつの部署だけではすすまない。よい結果を生むにはあらゆる分野からたくさんの人たちのご協力を得ながら進めることが基本であると考えております。

ぜひまた多面的にご支援いただきました世田谷の教育が、区市の模範になるような内容で進められるなら、それが子どもたちのためにもなよりの幸せになるものと思ひます。次代を担う子どもたちのために私たちが力いっぱいやりますがぜひご支援をお願いしたいと思います。有難うございました。

司会(渡辺) 質問に入る前に中村次長よろしく。中村教育次長 教育委員会の教育次長の中村と申します。

どうぞよろしく願いをいたします。

仕事から各学校に行くことが多いわけなのですが、そこで校長教頭からいろいろ話を聞きますと学校行事ですとか学校の教育活動に町会の方々にお世話になっているという話をよく耳にいたします。そういう話を聞くたびに皆さんのおかげで学校の教育活動が進められていっているのだなということを実感いたします。皆様には大変お世話になっていふことを教育委員会からも感謝申し上げますと思っております。



今日このあともお話しにできることなかなと思ひますが、ご承知のとおり教育改革というところで最近の国のほうも積極的な動きをしており

まして、具体的な法律の改正ですとか、制度の改正作業が進んでおります。

いくつか目玉となる点はあるのですが、その中のひとつの大きな目玉は学校と地域のつながりをもっと強めるための仕組みを充実していこうということが打ち出されていると思います。

世田谷区ですすめております学校協議会等も、そういった方向に沿ったひとつの試みであります。特に平成一四年の四月から学校週五日制が完全実施されるということもありますし、学校と地域との係わり合いをさらに今まで以上に深めていく。

逆な言い方をしますと今まで以上に地域の方々の協力を得ながら学校教育をすすめていくということがもっとも大きな課題になっているのではないかと思えます。

そのよつなことから今日、地域の代表である町会の方々の、さらに代表である

皆さんにいろんなお話が伺えれば私もこれから学校教育をすすめていく上で参考になるかと思えます。学校教育だけではないかと

胎教からはじまる教育

白石会長 小野さんが教育

長になられたというのに、まだおめでともやっております。小野さんが教育長さんになられたというんでわれわれも心強く感じているところですよ。

教育の問題は具体的にいうと「胎教から始まるのだ」ということを昔から聞かされております。お母さんが身ごもった時から胎教というものがある。それぞれの主婦として婦人としての教育に関する心構えをつねにもって胎教をする。こういうことを聞いております。

教育の問題は子どもも大勢おりますので具体的に考えていかなければならない。

思いですがぜひともいろいろなご助言をいただければ有難いと思えます。どうぞよろしくお願いをいたします。

教育基本法というのは、

あれは幼稚園をでて小学校に入ってから法律なのですかね。あれはね。教育という大きな点から言ったら教育基本法には前提である胎教とか家庭教育というものがひとつも入っていない。

おおざっぱに言って、家庭教育、社会教育、学校教育これが平行していい教育ができるのではないかなと思えます。人間を教育するのですから教育基本法によつて学校だけで教育が完成するなどということはありません。胎教からはじめなければならぬ。そうしますと家庭というものがつちりと見なければならぬ。

今家庭はどういう道をたどっているか。家庭崩壊につながりないでしようか。家庭が崩壊していい教育ができるわけはない。そんなことを考えています。崩壊というのには大きなことではございませぬが、やはり政治と行政にも責任があるのです。

どこに責任があるか。古い言葉かも知れませんが主人の家庭統率の権限というのがぜんぜんなくなつたのです。はなはだしいのは「親父元気で留守がいい」という考えです。あれ聞くとおかしくなつちゃうくらいなのですがね。

主人が一生懸命会社で働いてそれぞれの勤めでお金を貰う。それをどうするかという、銀行に振り込んじゃうんじやないでしようか。一か月働いて家へ何もつて帰るといふのですか。手ぶらで帰ってくる。その結果、子どもがどんなふう

に受け取っているかという

ひとつの例をあげますと、お母さんが銀行でお金をおろした。するとお金がバラバラと下に落ちた。小さい女の子が「お母さんずいぶんお金持ちなのね。おかあさん、よかつたわね。」と言った。お母さんは「いや、お父さんが一生懸命働いてくれたからこうなんですよ」とはひとつも言わなかった。

子どもは子どもなりにそれをずつと考えていくという、お父さんというのはいてもいなくてもいいということになる。お父さんの権限というのはなくなりま

すよ。昔ならお父さんのボーナスの時ちゃんとお母さんが神棚へ手をあわせて「今日はお父さんのボーナスの日だ。お前たち前から言つていたバット？ ミット？ 何が欲しいの？ お父さんにお願ひしなさい。」さつくばらんに言えばそういうことが家庭教育の基本になつてくるんじゃないか。そんなことを考えます。

いわゆる教育基本法は法律ですから、学校、生徒としての問題に係わる。何かそこに家庭的なものを付け加えていただいたらどうか。これは法律の問題です。ですからここでどうの言うわけではございませんがそういう考えをもつています。

教育長の抱負

今は教育の変換期

小野教育長 教育の中で私が一番これからすすめていきたいと思うのは、今、教育の変換期といえますか改革の時期であり、こんな時に教育長という職についていることについては正直言つて非常に重荷を感じております。大変な時期だなと。

今あらゆるマスコミあるいは新聞、雑誌を取り上げても教育の問題がない日はないと言つていいほど

以上簡単に一言、口火を切りましたのでいろいろご意見を聞かせてください。司会(渡辺) それでは、よいよ本題に入りまして、まず教育長さん新しい職務におつきになつて、そのご抱負というものがあつて、思いますので伺わせていただきますと思います。

いろいろな形で教育が取り上げられていきます。

私は、人の生活を考える時、あらゆる面で一番基本になつていのが教育だと思つてます。それがそれぞれのところ、少しづつ何か欠けていったことの中から今のような少し混乱した形のようなものができたのではないかと思つてます。

次の世代の夢を育てる教育

教育にはまず家庭教育

それから学校教育、社会教育と大きく分ければこの三つあるわけですが、その中で私たちが特に受け持つところは学校教育、社会教育の分野が多いわけですが、学校教育、社会教育を担当する中で、とにかく世田谷の教育が、やはり次の世代の夢を育てるようなものでなければならぬだろう。そのための手段についてあらゆる分野から取り組んでいきたいと抽象的な面ではこう考えております。

またそれらをすすめていく中で忘れてはならないのは社会教育の分野かも知れませんが、地域の教育力の向上という点でございます。

地域の教育力の向上

これらについても単に家庭だ、学校だ、あるいは社会教育の活動がいろいろすすめられていますが、それを全部切り分けしてすすめる

これらについても単に家庭だ、学校だ、あるいは社会教育の活動がいろいろすすめられていますが、それを全部切り分けしてすすめる

るのではなく、それらの連携が必要なのではないかと考えております。

世田谷の特徴を生かした教育

とくに世田谷らしい教育といふのがあつたのではな

世田谷の特徴は以前から

学校教育、社会教育、家庭教育の連携補充

連携補充

そういう意味では学校教育に偏りがちのところは社会教育で

育は学校教育にくらべて何と

かというと中心を学校教育におかれがちですけれども、社会教育は子どもたちの規範

をつくる場所ですから学校教育との連携、そしてそれを家庭教育に戻して家庭教育の中で社会教育から得たものをバックしていくとい

緑であり文化であり、また人材であるといわれています。この中に優れた教育環境はたくさん含まれております。

これだけ恵まれた要素を生かして、世田谷らしい、そしてそれが子どもたちにとって十分生かされた教育ができるようにしていきたい。

うことから全体に通じるものだと思います。

この三つのものを生かしたいと

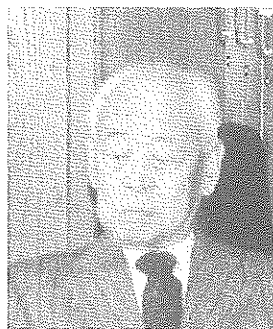
学校協議会について

またちよつとぎつぱくになつて申し訳ないのですが、具体的に例をあげますと世田谷は大変恵まれたところだと思つてます。学校教育の中で一番大きな問題に学校

協議会というのがあります。九六校ある小、中学校の全部に学校協議会ができていますが、これは世田谷だけなのです。二十三区それからほかの都市でもなかなかそれができない。なぜできるのかといえば、世田谷には人材もいらつしやいますし、風土というか皆さんの世田谷の地域に寄せる熱い情熱が寄与している。これが学校を支える一番大きな力になるのではないかと。従いまして学校協議会の力も借りて、よりよい世田谷の教育法を進めていきたいというようなことを考えています。

校長の任免権について

安田副会長



たとえば学力だけでは至らないかも知れませんが、他の私立にはないものを、公立だからこそのあるという、何かこう人間味とか温かみ、そういうものが本来に

生かされてくれば公立学校は見直されるのではないかと。私立に負けない公立学校。そのようなことを考えておられます。

小野教育長 本来人事権は東京都なのです。うちは内申はしますから教育委員会にまわすから関係ないとは言えません。

いま教育長から協議会の

問題がでたのですが、私のいる松丘町会は、松丘小学校、桜小学校、弦巻小学校、桜丘小学校と四つが町会と関係があるのでですね。

小野教育長 そうですね。三つあるわけです。教育の運営の問題、青少年の健全育成、防災と。そのうちの防災会議がこの間あった。協議会を始めましたところ、校長と教頭が二人一緒に代わったものだから今までのいきさつがわからな

少し広がりすぎてしまいました。世田谷らしさとか、極端に言えば私立に負けない公立学校をつくりたいなど思う。それはやり方によってできるのではないかと。

校長先生の任命権というのは教育長にあるのですか。

小野教育長 そうですね。それで話がおかしくなっちゃって委員の中にはこんなのはばかばかしいと「私が説明するから」と言って止めているにもかかわらず帰っちゃった。そんないきさつがあつていくら町の人が学校とうまく連携してやっついていこうと言っても校長がああいうふうに急がなければならない。

校長先生の任命権というのは教育長にあるのですか。

小野教育長 そうですね。三つあるわけです。教育の運営の問題、青少年の健全育成、防災と。そのうちの防災会議がこの間あった。協議会を始めましたところ、校長と教頭が二人一緒に代わったものだから今までのいきさつがわからな

小野教育長 そうですね。それで話がおかしくなっちゃって委員の中にはこんなのはばかばかしいと「私が説明するから」と言って止めているにもかかわらず帰っちゃった。そんないきさつがあつていくら町の人が学校とうまく連携してやっついていこうと言っても校長がああいうふうに急がなければならない。

ので、校長教頭もいろいろ地域関係の頭に入れて地域の人が助けてくれるということでも喜んでおります。

私も校長が新しく代わったところには回っておりますが、地域のひとが非常によく応援してくれて仕事がいやといっていておりました。

ところが教員の方たちがまだそこに十分入っていないのではないかと。たとえば学校協議会の防災にしてもほかの運営にしてもおそろしく参加が少ないのではないかと。かといってこの前も先生がたに話しました。

まず開かれた学校をつくりなさい。地域の方たちとの連携を強めることが学校の力をつけることなのだ。まず学校の施設を開放すること。それから学校の教育内容についてもなかなか知られていないから公開する。運営等について地域と相談できるような形にする。それからもうひとつは学校の先生がたの心を開いてくだ

さい。地域の中に入ってください。そうしますと地域の方たちとの話し合いの中で教育の幅が広がるのだ。だからそれを是非やって欲しいと集まってくれた先生方には話したのです。

それには校長、教頭だけではなく一般の教員の方たちも、地域の行事や学校協

最近の授業参観で感じたこと

白石会長 学校教育の中でこの場合にだされた学校協議会という通達

の目的は各地域と学校の連絡、メッセージのとれるものということでしょう。とくに校長先生によつては防災が重点的な話になる。ところが片方は防災ではなくて学校教育の問題。

この間こういうことがありました。小学校でパネルディスカッション教育があり、最近の教育法ではないかなということ

議会の防災の会議などに参加して欲しいと呼びかけました。今後学校協議会をふくめてあるいは他の地域との連携を学校と地域の方々の交流を大切に確立していきたいと思えます。

安田 よろしくお願ひします。これは地方の学校にはかなわぬ。自然にあつては教育につながっていく。それは都内の学校ではできない。

そこで一番感じたことは二十三区都心の学校は全然自然と接触がない。地方に行きますといやでも応でも山で遊ぶ、川で遊ぶ、沼でとか大自然の中で人がやる。校長先生がいくら優秀であつても教えることができないもの、人為的にやるのでなく自然から受ける教育が育む人格と人柄というものが出てくる。そうすると魂というものの触れ合いがでてくる。いくら世田谷はいいと言いましても自然という問題を取り上げると、

この間こういうことがありました。小学校でパネルディスカッション教育があり、最近の教育法ではないかなということ

防災に重点をおいた校長だとしてこの町会ほどの教室、どの部屋と言つてい

るところにぎといたときに行つたつて収拾がつくものじゃないのですよ。あまりそこにこだわるとおかしくなつてしまふのではないかと

思う。普通の接触については非常に変わつてきました。

子ども自身が「こんど運動会がございませぬ」と自分で絵がみをつくつて持つてきます。そうするといやでも応でもいかなければならないような感じをもつような温かい雰囲気になります。お母さんと来る場合も友だちと来る場合も一人で来る場合もありますが、そうすると子どもたちがそれなりの目を開くのじゃございませぬか。そういう教育が進んできました。

世田谷区はいいことをやつてゐるなと教育長の考え方も通つてゐるなと考えましたね。具体的に言う

そういうこともございます。それから町の人はどう考えているか。

おばあさんが道路に花をつくっているのですよ。

そこを通学路ですからほとんどどんどん子どもが通る。そうしますとはじめは朝声をかけて通る子どもはいなかった。ところがそのおばあさんの方から「おはよう。いつてらっしゃい。けがしないですね。」と声をかけた。それからそこを通る子どもが「おばあさん、おはようございます。行ってきます。」と言っていくそうですよ。

そういうのが学校教育の一環ではないかなと思います。それではこれをどうして広めていくかが問題なのね。

大勢の人が理解してやればいいんだけどもそうもいかない。

そういう具体的なこともたくさんございます。そのおばあさん「ありがとう賞」で表彰しましたよ。

地域の影響力

宮崎編集委員



うちは砧小学校の管轄なのですが、開かれた学校ということでは一よその地域もそうかとも思うのですが「私なりに他の模範となると自負していることがあります。というのは来年度百周年を迎えるわけなのですけれども、夏休みにはいると同時に「砧っ子夏まつり」ということで盆踊りをやります。地域の係わる町会が五町会あるのですが、みんな協力しあってカレーをつくって子どもたちにご馳走するのですね。砧小を去ったOBも含めて呼びかけ、今年で一四回目になるのです。そういった点では

学校協議会を含めて防災は抜きにしても積み重ねてきた模範となるところではないかなと思います。

それから砧南中学なのですが五二年に開校だったので。五三年にPTAができましたして私はその初代の会長ということと二年間にわたったのですけれど、新設校であり当時はかなり非行が氾濫している時代で、砧南中もそのひとつだったのですよね。ですけれども地域を囲んでの話し合いで地域ぐるみで守っていくということと発足当時から地域の町会を囲んで懇談会をやりました。

中学の協議会に参加した時そのお話をして、「わあ、すごいなあ」という感じで皆さんからちよつと話題にされたのですけど、それからずっと年度を経過してみますと、全体的にそういう地域を含めた懇談会的なこ

とを守られてやっているような形跡を伺ったとき、やっぱりよかったのだなと思いました。

ほんとうに地域ぐるみで子どもたちを守ったという感じでやってきました。

小野教育長 この点については白石会長のお話と宮崎さんのお話とあい通じるものがあるかと思うのですが、ひとつには学校協議会の活動項目の中で防災というのはいくらもかという一番地域に分かりやすいし、入りやすいという点もあったかも知れませんがまず防災についての学校協議会の活動というのがあった。

ところがなかなかあと二つ、たとえば学校運営とか青少年の健全育成のための教育のすすめ方については学校のほうの状況が分からないというのが地域の方たちあるいは学校協議会のメンバーの方たちのおそらく実感だったのではないかと。そういう意味で学校のほうでそれをオープンにして、

あるいは先生方が心を開いて地域の方たちと一緒に行動する。あるいは学校から情報を提供する。そういうような形がとれていけば地域で子どもを教育するという形のものやすめられていくのではないかと。ということで今学校に対してとにかく開かれた学校にしてくださいよという形で指導しているわけです。

それからその中の具体的な動きとしては砧小、砧南小、砧南中については一時中学校が荒れた時期がございましたして大変だった。

それを地域の方々が真に地域で非行あるいはいじめをなくしていくといろいろな活動をなされたのだと思います。それは大変有難かったことです。

それにはやはり学校のほうでも地域の方たちに情報を提供して一緒にケアしたいということが大きな力ではないかと思えます。今砧南中に行っても非常に整然としております。

宮崎 波はありますけれど
もね。(笑)

小野教育長 でも応援して
いただけるおかげでずい分
助けられているといえるの
ではないかと思えます。こ
れからも必要ですし学校の

中学卒業生の ボランティア活動について

板谷編集委員



先ほど教育長から学校協
議会の概念といいますが理
念を伺って同感いたしてい
るわけですが、学校協
議会議会といいますが、学
校から校長、教頭、教務主
任と三人の先生が主体で
てられております。もち
ろん担任の先生がおみえに
なることもあるのですが、

ほうでも学校協議会なんか
を中心として地域の方たち
との連携を深め、その中で
学校の全体の教育力の向上
をすすめていく必要がある
と思っております。

大体三人の先生方が窓口で
協議がなされているわけな
のです。

私も九品仏出張所管内
の八幡中学校、九品仏小学
校、八幡小学校は協議会の
運営は大変うまくいって
いると思えますし、そうい
う中で子どもたちが九品仏ボ
ランティア会という会を結
成しながら地域の行事にお
きましては、八幡中学校の
生徒会、それにつながる九
品仏ボランティア会。

つまり地域で中学生から
高校生になり大学生になり
今年はいよいよ社会人にも
なつてまいりましたが、そ

の連携の中でいろいろ地域
の町会をはじめとする行事
あるいは地域の高齢者施設、
あるいは障害者施設に行つ
ていろいろお手伝いをして
いるわけでございます。

そういう地域の実態、子
どもたちが地域でどんな笑
い顔をしながらお手伝いを
しているのかという実態を
校長、教頭、教務主任の範
囲だけではなく全校の先生
が一年に一回でも立ち会つ
て子どもの本場の地域の顔
をみて欲しいと切に学校側
に希望している段階でまだ
実行の段階にはいたってい
ませんが、切に学校側にお
願いしているところです。
それが一番開かれた最終的
な結果なのだろうと思つて

先生は学区区域を歩いて

小野教育長 おっしゃると
おりだと思います。とにか
く極端に言えば現場に行く
ことが仕事。

たとえば行政マンは何が
あつても現場にいけとい

いるわけなのですが。

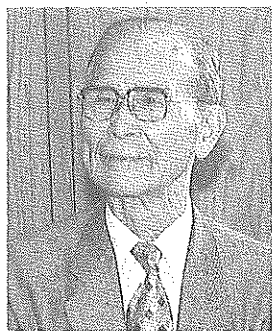
過去に比べますと現時点
でもかなりすすんだ学校と
地域とのつながり方だと他
区と比べながら認識してい
るのですが、なお一層学校
のトップにたつ人間ではな
く、それぞれの担当の先生
も町での子どもの実態を見
きわめていけばなお自分の
クラス担当としての学校を
担当する立場の先生として
も子どもの見方が変わつて
くるのではないかと。
あるいは地域の見方が変
わつてくるのではないかと。
もつと密に教育、地域と
のつながりのレベルがあ
がつてくるのではないかと
そんなことを実感しており
ます。

ことがさかんに言われてい
る。学校の先生もそうで
しょ。地域を知らないで教
育というのはなかなかでき
ない。先生方も自分の学区
域くらいは歩いてください。

先生は学区区域を歩いて

そうすれば子どもたちの生
活の状況とか、学校とつな
がった教育の仕方というも
のをまた違った目でみられ
るのではないですかと話し
たのですが、おっしゃるよ
うに学校の公開日なども増
やし、できるだけ多くの地
域の方々も授業の内容をみ
ていただく。そういうこと
で理解を深めてもらう。学
校のほうからそういうもの
を出さない限り閉まつてい
たらなかなかできませんか
らそれをすすめたと思ひ
ます。

玉井編集委員



先ほどからお話を聞いて
いると勉強になることばか
りです。

教育というものが変遷し
ていく中で現状はどうなつ
ているかということを考え

てみると、中教審がいま一番提案し実現しようとしているのは地域というものと学校の関係を改善することではないか。そのためには市場原理まで導入してやらなければならぬ。

もうひとつは選択するのは住民であるということ、一番おおきな二つの柱にしていると思つています。その中で特に盛り上がっているのは、学級編成の弾力性ということもほんとうに大事なことです。

次はいま教育長さんからご説明を頂戴しましたけれど教育長の任命権の問題です。助役と同じように教育長は議会の同意が必要であり、校長の権限の強化ということが言われております。もうひとつ大きなことは教員以外の少なくとも一〇年以上教育に関する仕事をした者は学校長に登用するということが行われているところもございます。

ここで問題にしました学校協議会について読んでみ

ますと先生、父兄、各町内の町会長、自治会長一〇名くらいの編成でやっていくことになってはいるのですが、学校協議会で一番ネックになっているのは他の協議会との連絡性がいまのところあまりよくありません。

私のほうも給田小学校、烏山小学校、上祖師谷中学校と扱っているのですが、私のほうでは委員の中に警察関係の方がかならずひとり、消防関係の方がかならずひとり、あとはPTAの方ですね。なぜかというところ子どもを守る点ではそういうふうな役所と学校との関連を具体的にPTAはもちろんのこと教員、町会長と同じ協議会に入ること

ものが教育について見守つていこうということなのです。同時にいまからの問題は青少年の反対ということも教育上見落としてはならない。私も大きな経験をふまえてそういうことが言えたのですが上祖師谷でそういう例がございました。そういう

ことで学校協議会の運営も場所により違つております。私も親しい自治会長さんにお願ひして各学校協議会の会則というものを見せてもらつて拝見したのですが無理もあるしムラもあるというところもある。学校協議会のいい点ばかりでなく悪い点もふくめて教えていただきたい。

学校協議会の発足の経緯

小野教育長 中村さん、ひとつは地域が学校協

中村教育次長 そうですね。私は学校協議会の立ち上げに係わってきたものですが、少し補足して説明申し上げます。

学校協議会をなぜつくつて欲しいということができたかということなのですが、これは平成七年にいじめの問題が起こりまして、校内でいじめの問題に取り組むことは当然なのですが、地域の方にも協力していただ

議会に積極的に参加していただく以上は学校協議会をつとめていただくべきか。区また都の教育長さんがどういうふうな考え方、また協力をしているか、われわれ自身の学習をもう少ししてみたいと思つております。以上です。

かないと解決は難しいのではないかと。地域の方に協力を求める仕組みとして学校協議会をつくつたらどうですかという話を学校に持ちかけたわけなのです。

そういう意味で先ほど宮崎委員から砧南中学校で地域ぐるみで取り組んだというお話がありましたけれど、全部の学校でそういう仕組みをつくつて貰えないかと。

ところがあるかなかできないのですよ。どうしてかといういろいろ校長先生たちに聞

きましたら、ちよつと恥ずかしい話なのですが、「どういうふうにやったらいいかよく分からない」ということなのです。そこで教育委員会でもモデルというか模範としてこういうふうなテーマでこんなふうなメンバーでこんなふうなやり方ではないですかということを示しました。

教育委員会は当初、たとえばその中に取り上げるテーマとしていじめの取り組み、言ってみれば健全育成の取り組みを予想していたのですが、それ以外に学校の教育活動になにか困つ

かけているいろいろな提案してもらつたらどうか。それから防災も一例としてテーマの中にあげた。そうしましたら各学校でそれをそのままお手本にしたものですか、

防災が一番取り組みやすいとお考えになった校長先生が多いのか、そのようなことから防災をテーマにしていろいろ学校が多いと思つて

す。教育委員会のもととの趣旨はその学校で一番大事だと思つてテーマを取り上げてもらつていいですよ、または学校で一番困つていふことをテーマにしてくださいと呼びかけたわけなのです。

学校で一番困つていふことをテーマに取り上げるといふことは、逆にいうと学校の実態がある程度地域の方に率直にお話ししないと駄目なわけですね。うちの学校には何の問題もありません。いじめもない、不登校もない、何の問題もありませんというのでは地域の方に協力の求めようがないわけですよ。校長先生たちには学校で困つていふことを率直に地域の方に申し上げて地域の方にどういふことをやっていただくことが可能なのか、そういったことを学校協議会で相談してくださいということですね。全部できてから今年で三年目くらいになるのです。

宮崎 九年目です。

中村教育次長 学校によつて違います。学校協議会をつくつて欲しいと呼びかけた時点で既に同じような活動をやってますという学校があつたわけですね。そういうところはそのままやつて下さい。ない学校については学校協議会という形でつくつて下さいと呼びかけたわけです。その結果、協議会を呼びかけたのはそれ以前ですから五年くらいになるのですが、正直言つてうまくやつていふ学校もあるし、もうちょっと頑張つてくれなにかと思つような学校もあるのですが、基本的にはそんな考え方で教育委員会は取り組んでおります。できましたら私もとしましては校長、教頭先生だけではなくて一般の先生方にも入ってもらいたい。先ほど板谷委員からお話もありましたがまさに私どもも全く同感に感じております。校長先生に一般の先生にも参加させてください

いと言つております。ただ問題は一般の先生方に参加していただきたいのですけれど、正直言つてなかなか忙しくてそんな時間は取れないという率直な意見もあるのです。

板谷 それも十分わかつておりますのでせめて年一回ぐらひはという条件もつけております。

中村教育次長 そうですね。それに対しては学校の仕事のやり方をいろいろ工夫してそういう時間をつくることは可能なんじゃないかと

思うのですが。

板谷 自営業でもしていただきますと、われわれ一般人が仕事に取り組んでいふのは三六五日。学校の先生は夏休みもある。春休みもある。そういう中で時間の捻出が

できないのかというふうなことも言うわけなのですがね。年一回ぐらひはお休みがとれて地域を見ていただく時間もあるのではないのでしょうか。

中村教育次長 まさにまったく私どもも同感でございます。(笑)。

選ばれる学校を目指して

小野教育長 いま子どもがだんだん少なくなつてきて私立のほうでも生徒を入れるにいろいろ工夫をしている時期ですね。学校自体が選ばれる段階にきています。私立もそうですし公立と私立が比較されて選ばれる学校でもあるし、今度は地域の特色ある教育という形で

これから打ち出されていくわけですが、特色ある教育がすすめられていくと、それをオープンすることに、よつて、どうしても私はこつちの中学校に行きたいとか小学校に行きたい、いわゆる学校同士、公立同士でも選ばれる段階にきつ

してやはり学校としてのしつかりした運営というものをすすめたい。それにはPTAの方たちとの連携、地域のひととの連携、ものがしつかりしている学校が内容として守られていくだろうと先生にもこの前行つてお話ししたのですが。もう一つは先ほどもちよつと出ましたが、都会の学校ですからできないこともございますけれど自然体験とか、たとえば年一回川場村みたいなところに行くといふこと以外にも、区内でも自然が豊かなところと極端に言つて申し訳ないですが、北沢とかあちらのほうと玉川のほうの違いというものもまたあるかと思つたのです。農地のあるところとないところ。ですから学校ごとに区内でも連携しながら交流しようと、こういう形のものやつてくださう形のものをつけてやっています。いわゆる移動しながらやる。それからたとえば教育活動で野球を

やりたいのだがどうしてもその学校には校地の問題とか先生の問題で野球チームができるだけのものがない。そういう段階では弾力的な運営で望む学校へ希望を通していかしていることもあ

地区青少年委員会との関係

司会(渡辺) 平成七年に学校協議会ができたときの私の最大の疑問は、今まで各出張所に何々地区青少年委員会というものがあって、その委員会は学校とPTAと地区の人とが協力して子どもたちの面倒をみるのだということ、健全育成を考

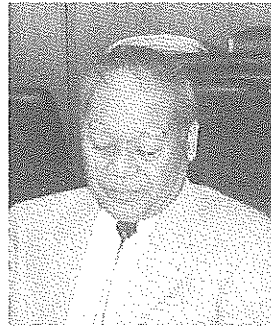
えるのだということにあつたわけなのですが、そういうものがあるのにそれとの関連せんぜんなしに突如として学校協議会ができた。しかもそれに防災まで加わっているというので非常に疑問をもったわけです。

高橋副会長

そうではないでしょ。各学校は学期ごとに地域

る。そういう形もふくめて学校間の交流もできるかぎり増やしていこう。できるだけ体験をしていただきたいということを進めております。

の懇談会というのをやりました。



私のほうは五校。中学校

二校、小学校三校みんな学期ごとに町会長さんとやっていますね。だけどそのときの内容としましては学校が荒れていても悪い子はいませんという報告だったのです。それで協議会になつてやつと「見てください」という形の報告がなされて、二月ですか。うちの

ほうは中学校の協議会の時間を二時間とつたらはじめの二時間を生徒の勉強ぶりを見てくださいということで見ましたがそれはひどい態度ですね、内容がね。ですから協議会をやる場合は私どもも、ここにいらっ

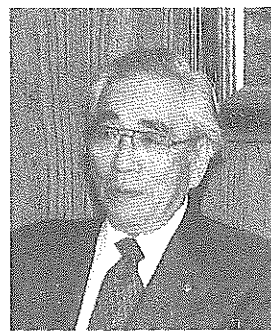
しやる倉本さんなども学校との教育の問題で昭和三十五年ごろから長い間かかわりをもつて青少年委員とかをやっていましたから、学校は地域の宝だという形でいまもつてそういう考え方で、学校あつての地域なんだよということ、しきりと私ほえているのですがね。

司会(渡辺) ちよつと私の申し上げようとしたことと方向が違つてしまいました。たが、私が申し上げたかったのは、いわゆる青少年委員会というものが区長業務といいますが、そちらに厳然とあつて、その中には学

校長、教頭は当て職で二名ずつ入っているわけですね。うちのほうのように三校あれば三校六名の方が入っ

ているわけです。それにPTAも入つて地域から選ばれた委員とをやっているわけです。それをそれと全然連絡なしに突然起こつたことについて私は非常に疑問があるのですが。

倉本副会長



いや、学校協議会というのは突然現れてきた。

司会(渡辺) ええ、平成七年に突然現れた。

高橋 立ち上げてきたお話の受け方が全然違つている。私どものほうは千歳村といつてとても教育にもとても熱心なところなのです。だからある程度の連絡はそれぞれにあるわけです。あつたのですがそこへもつてきて協議会というものが

ポーンとまた出てきた。これでは中身はなんじゃろな

というんでまたこれちよつと考え直してそれで。小野教育長 あのないですか。実は私の方関係しているものですか(笑)。

実は当時玉川総合支所長をやつておりました青少年委員とかあるいは出張所のほうでの地域の町会の方たちのお付き合いというからお世話になつていたのですが、そういう中で学校協議会というのがひとつできてきた。悪かったのは行政の縦割りの悪いところが出て

しまったところがあるのですね。もう少し連絡をとつてすすめていけばスムーズには入れたかも知れない。ところが片や教育委員会というものが主体となつて学校協議会というものができた。

倉本 それはなんなのですか。下地は。小野教育長 それはそう

じゃなくて、従来出張所を中心としたグループとしてやつていたところが今度は違う形で新しい組織のもの

をつくらなければならぬ
ということがでてきました
ね。当初少し混乱しました。
いまは学校協議会として落
ち着きましたが当時は相当
ずれがあったことは事実で
ございます。

倉本 いったんはね。並行
するみたいな変な感じだっ
たのですけれど。

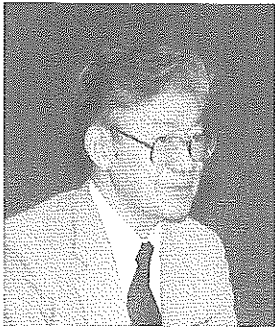
高橋 話とって悪いのです
が、結局行政区と学区と
をきちつと線を引いてもら
いたいんです。そうすればと
てもいい感じになっていく
のではないかなというのが
私の考えです。

倉本 それはねえ私らひと
つの町会で五つの学校をか
かえてますでしょう。わた
しが全部でられませんから
五人の方にお願ひしている
わけですよ。それで帰って
きてお話を聞くとなかなか
これ連絡が取れてないんだ。
バラバラなのですよ。だか
ら町会としての対応が各学
校協議会に対し困る面があ
る。町会として統一できな
い面がある。どっちにしろ

子どもたちを育てるのは町
会の大事な仕事ですからで
きることからやっているの
ですけれども、そういうと
ころは高橋さんがおっしゃ
る学区と行政区が一緒
だったらくんないことは
ないと思うのですけれども。

まあ、中学校、小学校と
行政区はまた大きき違いま
すし、私みたいに義務教育
が高等小学校まで一本だつ
たら、その時代にやれば学
校区と行政区をひとつにで
きたかもしれないけれど、
いま小学校も中学校も義務
教育でございましょう。そ
れぞれの学校からの通学範
囲が違いますからどうして
も一緒にはならない。

清水編集委員



倉本さんのところは五校
ですか。私の町会は六校あ

るのです。(一同笑)
高橋 ですからできなけれ
ば中学校区域とか小学校区
域とか区切つてやればいい

町会が考えてきた 学校との関係

のですよ。
倉本 大変だよ。世田谷区
考えちゃうよ。

白石 いままで町会とい
うのは教育の問題について
どういう役割をはたしてき
たか。現実的にいろいろな
行事にしてもそれに伴う町
会の経費というものも大変
な額です。

たとえばどういうことを
するか。

夏休みに盆踊りをやりま
すね。踊りはなんでやるか
というとき、昔、問題青年協
議会というのがあって「問
題」というのがついていて
問題少年に大変な関心を
もっていたのですよ。

「問題」というのがなく
なつて青少年協議会と変
わつてきましたね。その間
のいきさつの中で町会ほど

ういうことをやっていたか
というとき、お父さんやお母
さんに連れられてくる低年
層の子どもたちの社会をな
ごやかにしよう。そして親
と子の対話をつくつてあげ
よう。こどもが大きくなつ
たころ「ああ、おれは子ど
ものころお母さんとあそこ
へいって盆踊りやつても
らった」とそういう記憶を
つくらせようということだ
一九八の町会それぞれでき
ることできないこととござ
います、できる範囲のこ
とをやっております。

青少年という問題につ
いては、分町会が骨折つて
やっていたわけござい
ます。

町会は町会なりにそうい
うことを考えていたのです
が、今度は学校のほうが学
校協議会とか具体的な書類
ができましたね。

そういうことで本来は子
どもたちと一緒に町の人
が最近進めてきた方向で、一
例をあげれば、町の高齢者
と学校の子どもの昼食会が
あるのですよ。

どういう結果になつたか。
学校全部ではないでしよ
うが非常に評判がいい。
おじいちゃんがおばあ
ちゃんもが寄つてくる。食
事をしながらおじいちゃん
をしながらおばあちゃん
を教える。子どもたちは喜
んで中にはお返しにオルガ
ンを弾いてサーブスをする。
そういう雰囲気は学校に
よつて違ふと思うが、もし
だされてきましたね。どう
してもこれを拡げてくださ
いと、拡げている学校もご
ざいます。

教育委員会の

基本的な呼びかけ

中村教育次長 先ほど渡辺

会長からお話のあった、屋上屋を架すのではないかと
いう話ですけれども、私も
も学校協議会を立ち上げる
時にもその点が心配な点の
ひとつでございました。

そこで教育委員会が各学
校に呼びかけた時点で、す
でにそういう仕組みがあつ
たり活動があつたりしてい
るところは、それをふまえ
た形でやつてもらつていい。
ない学校については、学
校協議会のような仕組みを
つくつてください。すでに
ある学校はむしろそういう
ものを生かした形でやつて
もらつていい。それで、も
し必要であれば学校協議会
という名前をつけなくても
いいと、そういうことまで
も話をしたのですが、要は
学校が困っている問題、学
校だけでは解決できないよ

うな問題があるわけです。

「うちの学校では何の問
題ありません」というこ
とではなく、もし学校で
困っている問題、学校だけ
で解決できない問題があつ
たとしたら、それを率直に
地域の方に申し上げて、「こ
ういふ問題があるので学校
を助けてください。地域の
方どうか学校を応援してく
ださい」と申し上げている
訳です。

言つてみれば、学校を手
伝つてもらふ、そういう活
動としてやつてもらえばい
いのですよ、と基本的には
そういう趣旨で考えており
ます。

ですから学校ごとに困る
問題はいろいろあるだろう。
そういうことのために学校
単位でつくつてもらつてい
いのではないかというのが
ひとつありました。

もうひとつ学区と行政

区域と町会の区域が一致し
ないということからいろん
な問題があるのですが、こ
れは正直言つて教育委員会
でも頭の痛い問題でござい
まして「なかなかいい知恵
が浮かんでこないのですが、
私どもも、校長先生に「ど
うしたもんでしょうか」と
相談されるのですよね。そ
ういう時「私は一応、町会
の中にも会長さん、副会長
さん、いろいろな役員さん
がいらっしゃるのではな
いか。

ひとりの会長さんが五つ
も六つもの学校にでるのは
不可能に近い、大変なご苦
勞をおかけしてしまうので、
もし町会の中で、会長さん
はこの学校、副会長さん
はこの学校、というよう
に役割分担をしてもらうよ
うなことができればいいの
ではないか、そういったこ
とをご相談してみればどう
ですかと話はしているの
です。

しかし、先ほど倉本さん

からお話がありましたけれ
ど、そうは言つても町会の
ほうにも町会のご事情が
あつてなかなかそうはいか
ないところもあるようです
が。

倉本 役割分担まではでき
ない。

これ、あとの処理がなか
なかうまくいかないのですね。
昼間お仕事している人は
午前10時とかは参加でき
ないのが実情ですね。

中村教育次長 そうですね。
清水 町会長がいきますと
学校のほうでもきていただ
くことなるべく努力して
いるのですけれども。

高橋 私のほうでは小学校
三校に行つていのです。
ですから三つ一緒に協議会
を立ち上げて話し合いの場
をつくるようにすれば能率
的ではないかと校長さんに
もお話しているのですがね。

倉本 協議会の連合会みた
いなものですね。
小野教育長 お互いの連絡
会みたいなのはいいので
しようけど、これを三つで

一つの学校協議会というも
のですとなかなか学校ごと
に違うので難しいなと思
います。

倉本 うちのほうで困るの
は学校そのものの環境も違
いますし、学校の校長さん
そのものの教育方針もすこ
しずつ違うのですよね。

この間もいろいろあつて、
うちのほうは蘆花ですから
上向いたつて下向いたつて
蘆花の文字しかないのです
けれど、子どもは何で蘆花
なのだか知らないのですよ。
だから子どもたちに授業の
時間をとつてもらつて蘆花
の話をしてあげたことが
あつたのですがね。

また、要請があればする
のですけれども、そんなこ
とも地域と連絡とらなくて
は、いや、びっくりするこ
とに先生が知らないですか
ら。(笑)

各編集委員から一言

清水 教育行政とか地域との連携は別としまして教育長さんに釈迦に説法ですけども教育論を少ししゃべっていいですか。

私は校長先生は最後は人柄だと思えます。ぜひひとつそのことを頭において勇気をもって学校を取り仕切って欲しいとお願いしているのです。

いろいろな問題が子どもたちにありますけれども要は担任の先生方が子どもたちを励ますことが第一だと思います。

教育ということは、小さい子どもたちにさまざまな特色ある個性がありますけれど、それぞれの子どもの人生を励ましあげる。

ほんとうに命をかけて「お前こうだぞ」というような先生に大勢出て欲しい。そういうことがひとつございませう。

そのほかいろいろありま

すけれど時間の関係もありますのであとは省略したいと思います。実際問題としては先ほどからお話が出ていましたように、安田さん、校長と教頭がすぽっと変ってしまいましたね。私もそういう校長をやりましたが大変でした(笑)。しかしそれは乗り切りましたけれども。

まだいろいろできていますが身に覚えのあることがたくさんございまして大変参考になりました。

それではひとつ世田谷の先生方。私は校長は十一年やり、軍隊にも行きいろいろありました。世田谷の校長はいっぺんもしませんでした。(笑)

世田谷の先生方は皆立派な先生で、ほんとうに釈迦に説法ですが、頑張れと言って生徒を励まし、人柄をほんとうに大事してもら

いたいと思います

四十九歳でなった四十五年ごろの校長でございますがその時代は「管理職試験、管理職、管理職」といって大変でした。

私は管理職という言葉が大嫌いでして、校長とはいうけれども管理職よりは先生だ。先生だということは教育者だ。人と人の人格のぶつかりあいだということが教育の本旨だと思っております。

ほんとうに人間教育を見直して欲しいとそんな気がいたします。

宗編集委員



私は礼儀というものは小さい時から、古いですがけれどもきちっと教えるべきだと思います。

社会に暮らしていくからには礼儀がなきゃ駄目です。

今は礼儀というと古いことを言っているみたいに見えるけれど、とんでもない話です。

私も池の上小学校に行きますけれど、代々の校長先生が門にたつて来ることも来る子どもに「おはようございませう。おはようございませう」とやっているのですね。するとやっぱり子どもたちは私たちに会っても「おはようございませう」というのですね。私も子どもがしよんぼりしていると「どうしたの。今日はごあいさつないのね。」と言って逆に声をかけるのですよ。そうすると恥ずかしそうな顔をしますけれど、こういう基本の躰というものは小学校の時にきちつとやって欲しいと思います。

人の思いやりというのかな。人の足を踏んだら「ごめんなさい」とすぐ言える人でなければね。今の人は足踏んでも「ごめんなさい」とも言いませんよ。私ほんとに恐ろしくなっちゃうの

です。家庭の躰もあるかもしれないけれど学校でも躰は古臭いなどと思つたらとんでもない、大事なことです。おせっかい焼きなものですから私がリサイクルを始めて新聞だの牛乳パックの回収を始めたときに、池の上小学校へ行つて、「一緒にやりますか」と五十嵐校長に言ったのですよ。「そうです宗さん。子どもにも教えないでどうするのですか。」と私逆に叱られちゃつたのですよ。それじゃ一緒にやりましょう」と言つて助役のところには物置をいただきに行きまして一緒に牛乳パックをはじめにやっています。

この間六十周年のときに朝日新聞に池の上小学校が載りましたけれども、やはり地域の人が考えついたら恥も外聞もなく校長先生に言っちゃうのですよ。なんとというか、自分で地域の子どもにはこういうふ

うな子どもになつて欲しいな、と思わないと駄目じゃないかなと思うのですね。

それと私いま地域の中学に關係しているのですが中学校は難しいです。

中学生に接触するという

ことは声をかけても反応がかえつてこないし、ほんとうに難しいです。「うるせいな。なにおばさん声かけてくるんだよ」というような。いまの若い人は声をかけると「うるせい」とすぐいうでしょ。「うるせい」という言葉一番嫌いなのですよ。学校から「うるせい」という言葉なくして欲しいとほんとに思います。

清水 あの先生方にもうひとつ申し上げたいことはあるのですが、さっき言ったように躰とか人倫の道とかはきちつと教えるべきだと思います。

しかし子どもたちに「お前ことういところ間違っているぞ」と皆の前で叱りますと、叱り方が問題だと思います。私は帰りまでに

必ず皆の前で「今日はことういところがよかつたぞ」と言います。ぜひひとつきちつと躰をしてもらつて、

叱つたあとはそれを直して、にこにこ帰すようにお願いをしたと思います。

小野教育長 ほんとうにおっしゃるとおりだと思います。学校教育は今大きく

変わつておりますけれど、その中で基本は以前とそう変わつていくわけではないわけでごさいます、いかに子どもたちが夢をもって日々の生活を楽しく学校に

いけるかを考えることだと思います。

それから今おっしゃった家庭教育についても、今ままであまり言われませんでしたけれども、その大事さが

見直されています。それからさつき言いました社会教育。それぞれが役割を果たすことが大事だろうと思

清水委員さんのような専門家が

おっしゃるので私がおもひも言うことは

ないのすが、本当におっしゃるとおり人柄だと思

うのでね。人柄というよりも先生と生徒が信頼

非常勤講師の活用について

関係で結ばれてなかつたら何を

言つても通じないものと思

います。ですからまず先生方自身

が子どもたちを信じてやる

こと。子どもたちの話を聞いてあげる

こと。これが信頼関係の一番の元

だと思

います。そしてできるだけ個性を大切に

してやることだと思

うのです。すべての子がすべて同じように

できるわけではないですから、いいところ

と悪いところが必ずあるわけですから

長所を伸ばしてあげる。

小野教育長 今世田谷区でひとつの例として

一学級の人数が四〇人

までなのすが、三九人の学級があつた

場合にはその学年に、非常勤講師をつけて

います。ひとつのクラスに二人の先生

になりますし、二つのクラスを三つに分けて

やることもあります。そんな形の教育の仕方

もしています。先日学校へ行つて見てみ

ましたら、子どもたちの中でなんでもかんでも

手を上げて

いる子もいれば、言いたいだけ

でもなかなか言えない子もいますよ

ね。そういう時にたまたま二人いたひとり

の先生がちよつと寄つていって「君の意見

はなに」と言つたら、手を半分までしか

日本人としての自覚

安田 私は教育の問題について、一番根本は日本人としての自覚を持たせるような教育をするべきだと思いません。と言いますのは中学校の卒業式や小学校の卒業式で国歌だって満足に歌えない。最近いくらかよくなったとはいえるもののそれで人格形成ができるのかということが心配です。

だから日本人のいろいろな混乱のもとはやっばりものを知らないからみんな翻弄されていますよ。根本的には精神的なバックボーンができていないのですね。だからそこに大きな混乱の原因があると私は信じます。

昔は小学校へ行けば教育勅語から始まって日の丸の下にみんな団結したから、黙っていても日本人としての自覚ができた。いま日本人としての自覚を持つような教育は全然されていないのですよ。そこに大きな問

題がある。

私は数年前、まだ松丘小学校にも日教組の連中がうるさくいた時その話をしたのです。左の話ばかりしているけどとんでもない話だ。日本人として自覚を持たせるような根本的な思想がないではないか。教育の混乱のもとはそのにあるのだと。

いま日本人としての自覚というとすぐに国家主義だ、軍国主義だと冷やかされるけどとんでもない話です。日本人としていまの子どもは日の丸にも敬意を表さないうし、国の問題にも敬愛の念がわかないですね。そこに問題があるので私はやっぱり日本人として国を愛し、国民を愛し、隣人を愛する日本人としての教育を徹底して、そこに子どもが「ああそうだ」と日本人として世界に恥じない国民となるような精神的な教育について

て、最近の先生は全然ふれていないように思う。

私はできるだけそういふところへ行つて軍国主義だとか言われようと、何と云われようとその点を参考にしながらやっていただきたいと主張しています。

玉井 委員長、一言いわせてください。

いろいろお話を聞いたのですが、最後にお願ひしたいことがひとつあるのですが、それは学校教育というものの前には家庭教育、学校教育、社会教育。

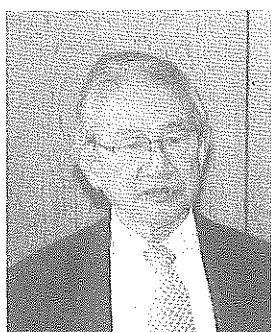
教育長さんが最初に言われたとおりなのですが、その中で私たち住民として、今まで人生から学んだ教育からいいまして、これは守つて欲しいというひとつ重要なことがあるわけです。われわれが社会生活をしており、社会生活の秩序を保つために、一人一人が守るべき行い、行為の基準が分かる教育者に最低限なつて欲しい。

教育基本法があるでしょ

う。日本国憲法があるでしょう。法律もあるでしょう。それ以前にわれわれが今まで子どもときから歩んできた、教育を受けてきた社会生活上の秩序というものがある筈です。秩序を保つために一人一人が行為の基準を守ってくれるような教育者であつて欲しいし、おとうさん、お母さんであり地域であつて欲しいところ願つてやみません。以上です。

再び学校協議会と青少年地区委員会の関係について

司会 (渡辺副会長)



ターゲットした時点なので、それはそれで分かりましたということなので納めたのです。

先ほど教育長がおっしゃったように全中学、小学校が入ったわけです。いろいろこれから交通整理をしなればいけないと思うのです。

それで先ほど中村次長さんがおっしゃった問題に戻りますが、実は平成七年の八月に会長、副会長五人で当時の教育長に質問に行きまして、ご説明のことはある程度分かっているわけなのですが、その時は九〇のうちの一〇校くらいです。

それにはまず先ほど申し上げた地区委員会、その地区委員会の会長会というのはいすくなくとも年三回はあります。その時には教育委員会のほうからどなたか課長クラスの方に必ずでいていただきたいということを三

年前から申し上げているのですが、やっとこの間この三月の時にはじめて出ていただきました。そしてやはり相互に理解を深めていかなければならないということがあると思います。

それからもうひとつは、これは白石会長も始終言っていたらっしゃるのですが、いま夜は別として昼間地震、天災があった時に誰が防災の指揮をとるのか。それは白石さんが始終言っているように「町会長であるのが当然である」とこうおっしゃっていますけれども、学校協議会の長とこのおっしゃっているのは学校長です。これはこれで当然だと思っております。

人がきたら渡していいの細かいことを日常につくっていただくこと、そして実際に天変地異が起こった時には町内に全部ばらまいていただかなければ、ひとつのところにこつちに学校長、こつちに町会長がいるということでは収拾がつかなくなると思いますので、学校協議会という防災というものは事が起こるまでのシステムづくりにも万全を期していただきたいということを私としては是非お願いしておきたい。

白石会長 寝ている時地震がきたと仮定します。そうしますと学校教育はここから始まるのです。というのは地震がきたらすぐ着替えるでしょ。昔は着替えを枕もとにたたんでおきました。地震対策ではないのだけれど、いざという時に子どもたちでも誰でもすぐ着替えて表に出て働くといったところから教育が始まらなければいけないのではないか。

いざ地震がきた。右往左往してやっとな着替えた。一番先に何をいうか。親父さんが「ああ、大丈夫かあ」と声をかける。それが常識です。「わたしの着替えありません」子どもたちが「おれの着替えはないよ。おとうさん」という時にそれはどうするか。「着替え終わったか」「着替え終わった」「そうだ。お隣に声かけよう」とこういうことになってくるのですよね、地震というものは、これが実際の社会の生活でしょ。

後ろから火がでたという時は状況によって学校に避難しなければならぬ。火が全くでなくて学校に避難する必要はないですよ。家の中には仏さんもあるでしょうし生活用品もある。学校に避難してどうするのですか。仮に学校に避難したらどうなりますか？これはトイレもなし水道はとまる。簡易トイレつくるのにどうする？ そんな現実を反したような考え方はもたないほうがいい。

学校は学校で校長先生がそういう計画をしておくことでは決して悪いことではないと思いますが、さて、ばさつと後ろから火に追われてきて自分が学校のどこに避難するかと何とかさういう考えはありませんよ。わあと入りこんでだれが中心をつくることできるものですか。現実と計画があまり違いすぎては駄目だということなので、だから学校の防災というものにあまり重点を置くのはどうかと思います。

学校協議会というのは防災だけではなくのものですから、そこらを広げて町の人によく説明しておけばよろしいとそういうことですよ。

板谷 防災に関してなので、今渡辺委員長が昼間の災害時というのを話してました。夜間の災害時に校長、教頭、学校の職員がそ

こに駆けつけるのは不可能ですね。その事態においてやはり学校に避難せざるをえないという現状は数時間後には来るのかも知れませんが、その時に学校の戸を開け、学校に向けて避難してくる住民たちを誘導するのは誰がやるのか、そういうことを含めながら昼間の責任者は学校長でもいいと思うのですが、夜間の対策はどうするのか。これも学校協議会で話をしていこうと、夜間震災時の対応というのをもう一度検討していただきたいとこのように思います。

安田 それについて参考までですが、うちの松丘小学校では夜間の場合は幸いにしてすぐ前に弦巻町会長がいるのです。私は松丘の町会長。それからうちの防災部長が近くにいます。それでちゃんと鍵も預かってそういう段取りしてあるのです。地震が起きてすぐ逃げられるわけではないの

だからそれは最後の時、火災になった時には対応できるように協議会でちゃんとやっていますよ。そういうところもあるのです。

板谷 それは私のほうもやっていますが必ずしもそういうところまで進んでいない学校協議会もあると思うのです。

安田 それはあると思います。話聞いている。そういう問題については、それぞれの協議会で早く組織を立ち上げていざという時に行って学校の門を開ける。そういう準備はやっておくべきだと思います。

白石会長 校長先生の住まいにもよるけれど、教頭先生だつてとても出てこれられませんよ。皆災害にあうのだからね。

中村教育次長 まず学校協議会の趣旨について教育委員会の思いが、まだまだ正直言つて校長に通じていないところがあると思います。それについては各学校長に教育委員会の趣旨が伝

わるように努力をしなければいけないのですが、その努力がまだまだ足りないという点でお詫びをしなければいけないと思つております。

したがって教育委員会としても学校協議会の趣旨が

災害時の 学校長の最大の使命

中村教育次長 それから災害時の対応なのですが、やはり校長の使命というのは何と言つても第一義的には児童生徒の安全確保にあると思います。

他方、学校の施設としての管理者の責任も抱えているわけなのですが、私は、基本的には学校長の使命は何と言つても児童生徒の安全確保に尽きるし、それが守備範囲だと思つているのです。

ただ問題は、実際に災害が起きて児童生徒以外に地

各学校によく伝わるように努力をいたしますし、青少年地区委員会等の会合にぜひ出席をさせていただいて教育委員会の考え方も伝えたいと思つております。

かというふうに通つております。

それ以前に白石会長さんがおっしゃるようなそんなことにならないのが一番いいのですがね。

安田 あまり学校協議会の中に避難運営委員会とかそういう会をつくることには私はあまり賛成できない。というのは、現在ある学校協議会は昼間は学校の校長がいるのだからいいが、夜はないのだから、いない時は町の者、近所の者が行つてやると、それが中の運営までやるからには避難所運営まで全部まかせられる。

また、新たにつくるとまた学校協議会との接点をどうするかという問題があるから、あまり組織をつくるのはやめて、学校協議会の防災なら防災にある程度運営をまかせたほうがいいのではないかと私はそう思いますね。

小野教育長 基本的には学校を中心にして防災に限らず教育の問題について教育

委員会がもちろんバックアップしますが、区として今の教育は教育委員会とかそういう問題ではなくて世田谷区が教育に関して力をいれてバックアップしていくという体制をとっていく必要があると考えております。

そういう中でたとえば防災の問題ですが、この前二つ学校火災がありました。

ひとつは学校の前での火災、ひとつは学校の中での火災、鳥山と玉川なのですが、これは昼間でしたので日常訓練しておりますので学校のほうからホースをだしまして、狭くてなかなか消防車がいりにかかった点もありまして学校の防火体制が非常に功を奏しました。

もうひとつの玉川は校内で簡単に消火できたのですが、私のほうで第一に考えるのは児童生徒の安全でございますまして、これについては先生方が数分の間に校庭の安全なところに避難させ

ました。こういうことが実際訓練としても行ってもらいたい。

ただ夜間の場合は区全体として考えていくこととして、その初動マニュアル等もできています。

ですからその時はあえて委員会が動けなくても、私が細かく知らないためにここで説明できないのは大変申し訳ないのですが、昼間は先生がいますが夜間の場合には地域の方をお願いします。

中の警備はどうするかマニュアルはできておりまして、できるかぎり安全にといいことでございますので、それをさらにつかまなければいけないと思いますが、そんな形で続けたいと思っております。

宗 ちよつと書いていいですか。私、校長にお願いしているのはいざという時にどつと皆が逃げ込みますね。私が心配しているのは下北沢の火事なのです。下北沢の火事がうちのほうに移らないとは言えないので

つもそれを言っているのですが、そうした場合皆が逃げ込んだ場合に絶対に入ってはいけない部屋はちゃんと表示してくださいとお願ひしたのですよ。神戸の話をききますと勝手に皆入ってしまったて、学校の先生の洋服や何かまでロッカーを開けて取っちゃったそうですね。そういう事態が起きるのはいやですから絶対に入ってはいけないという部屋は表示してくださいとお願ひしたのです。そうすると学校のほうで「いや、宗さん、そんなことを普段やると学校の生徒に影響があるから」と言っ

て実行していただけないのですね。私とすれば絶対に学校に迷惑かけたくないからそこは入ってはいけないという部屋はちゃんと表示して欲しいのですよ。中村教育次長 学校の施設を避難所として使う場合に入ってもらっては困る部屋があります。

まず第一は校長室です。これは全体の指揮所になります。それから職員室があります。これは児童生徒のプライバシー情報があるところ。三番目は負傷した人の保健室です。四番目にコンピュータ室です。これは通信機能があります。こういったところには避難される方もそこにははいらないでいただくようにしなければいけないと思います。そのへんを各学校で本当はきちんと普段から決めておいてもらったほうがいいと思います。

宗 やつておいていただけかないと、その場になつてどつと入ってしまうというから町会長が怒鳴つたて聞くとものじゃありませんから。宮崎 うちのほうはちゃんとどこの町会が何教室と開放されて…。宗 だいたい打合せしてま

すければいい。そんなにコメントロールきくものではないです。一般の住民にまで徹底していませんし…。倉本 絶対駄目ですよ。司会(渡辺) 時間もま



オウム問題について

烏山地域町会自治会連合会会計
編集委員 玉井良助



たため、市・町・町会・住民が一体となって、オウム信者の退去を求める具体的な活動行為・現場の様子を見た記憶である。

翌二十二日には、「区内十二カ所の出張所で計十三件の転入届出が、ほぼ同一時刻に・同一住所・南烏山六丁目にあったことを不審に思った区は早速現地調査をした結果、転入した十三名はオウム信者であることが判明確認された。」

「という情報は烏山地域一円に知れ渡っていた。平穩に静かに暮らしていた地元住民はこの日から恐ろしさと不安に怯えながらの日常が始まったのである。」

烏山総合支所にオウム（現アレフ）対策本部が設置され、区による二十四時間の監視体制がスタートした。右翼が街宣車で乗りつ

け街宣活動を始めた。右翼がマンションに銃弾四発を撃ち込む。怪我人なし。容疑者は逮捕された。翌日より、成城警察署はマンション一帯に二十四時間警察官による警備を開始した。

一月九日、烏山区民センターホールに地元住民七百余名が参加、区から水間助役、区議会から山内議長の両氏が参加し、オウム信者集団転入に反対・抗議の決起集会が開催され、烏山地域オウム真理教（現アレフ）対策住民協議会設立が満場一致で決議された。

集会参加者全員でオウム信者十三名の居所（GSハイム烏山）に向かつて、信者十三名の即時退去要請行動（デモ行進）を開始した。

区助役、区議会議長、地元町



会長の三氏は現地にてオウム側に、抗議書・要請書を直接手渡した。この決起集会の様子はテレビニュースで当日及び翌日にも放映された。

オウム対策住民協議会（以下住民協議会という）は区の全面支援下、区議会・都議会請願用署名活動、必要経費の募金活動、監視小屋を設置し、その監視活動のほか、住民協議会の活動内容、その他オウム関係の情報等を「オウム対策かわら版」で広報している。

協議会のオウム反対運動は長期にわたると思われま

たいと願っています。

おわりに、烏山にオウム問題が起こっている時だからこそ、今一度オウム問題の原点を見つめておきたいと思う。オウムという存在を現在の社会に存続させておくことが許されるか否か、ということ。その理由は、オウムという団体が数々の残虐非道な犯罪を犯したから、というだけではないのです。オウムの存在意義の中核こそが、数々の犯罪を生み出してきたものだからです。その存在意義の中核的なのものが、精神的ないし思想的なものであるが故に、一朝一夕に解決できるものではない。オウム反対運動は、オウム信者が組織から離脱するように働きかける運動でもありません。大きな目標のためにあせらず地道な努力を続けていきたいと思っています。（六月十二日）

昨年十二月二十一日、烏山出張所の植田所長より電話で「烏山にオウム信者が転入して来ました。詳しいことが判り次第連絡します」という一報が入った。このとき、約半年位前に見たテレビニュースが頭に浮かんだ。それは、千葉県柏市にオウム信者アレフ代表村岡達子外十数名が転入してき

町総連ニュース

▶ 2月21日

正副会長会

1. 平成12年度決算報告(中間)の件
2. 平成12年度特別会計(積立金)の件
3. 平成12年度清掃・リサイクル事業特別会計(中間)の件
4. 役員改選の件
5. 町総連情報誌の発行の件
6. 清掃・リサイクルの件
7. 今後の会議日程の件

▶ 3月13日

正副会長会

1. 平成12年度決算報告(中間)の件
2. 平成13年度予算(案)編成の件
3. 町会・自治会に対する区民意識調査の結果の件
4. 全国連続立体交差事業促進期成会加入の件
5. 国会等の移転に反対する署名の件
6. 日赤50周年大会開催の件
7. オウム対策の取り組みの件

▶ 3月27日

常任理事会

1. 平成12年度決算報告(中間)の件
2. 平成13年度予算(案)の件
3. 平成12年度特別会計(積立金)の件
4. 平成12年度清掃・リサイクル事業特別会計の件
5. 会計監査の日程の件
6. 常任理事会及び理事会の日程の件
7. 総会及び表彰式の件

▶ 4月5日

正副会長会

1. 平成13年度第1回理事会の役割分担の件
2. 永年勤続者表彰候補者の推薦の件
3. 平成13年度地域別・出張所別活動費配分の件

会計監査

正副会長、会計の立ち会いのもと、3人の監事により平成12年度に係る会計監査を行い、適正に執行されていることが認められた。

▶ 4月16日

正副会長会

1. オウム対策の取り組みの件
2. 東京都町会連合会会長表彰の件
3. 役員研修会の件

▶ 4月25日

常任理事会

1. 平成12年度事業報告並びに決算報告の件
2. 平成13年度事業方針(案)並びに予算(案)の件
3. 理事会の役員分担の件
4. オウム問題の取り組みの件
5. 総会の件
6. 永年勤続者表彰の件

町総連役員が オウム居住区域を視察

町総連役員会では毎年一回研修会を開き、江東区、文京区、杉並区等他区の町会連合会と、それぞれの行政との間で抱える問題について意見交換の場を持ってきたが、このところ二年間ほどは日程の調整などで曠き、昨年は白石会長の健康上の理由から延期されたままになっていた。

七月十日に実施された。ご承知のとおり烏山地域では事件発生以来、住民の対策協議会を結成し、二一、〇八六名の署名を集め、さらに九五〇名の街頭での署名を加え、また、対策費の募金を二三二、六三九円集めている。

これに呼応して、町総連の各地域町会連合会でも内閣総理大臣あてに、このような破壊的組織に対して、国として毅然たる態度をとってほしい旨の請願書の署名を集めていることはご承知のとおりである。

今回町総連として南烏山地区の視察を行ったのは、同じ世田谷区であっても地域を異にする

と、烏山地区の苦勞が見えてこないことに対するギャップを埋めることにある。

署名運動は署名運動で止まる筈はなく、ついで各地域でも募金運動を始めなければならぬのは自明のことであるが、離れた地域では何で費用が発生するのか、現地町会にどんなマンパワーが要求されているのかが見えてこない。

われわれが訪問するので総合支所の青木所長、烏山上町会の山田会長が迎えに出てこられたが、そのほかに常時警戒のために町会・自治会から三名警戒のため詰めておられたほか、世田谷区から課長一名、係長一名が

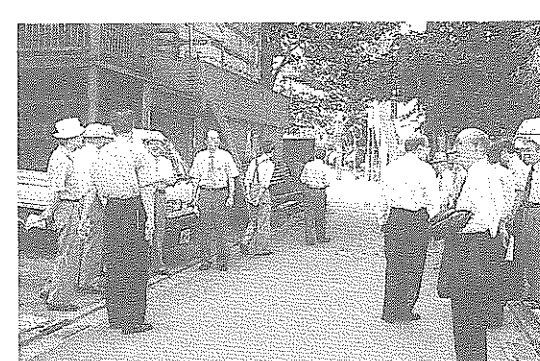
出て当該建物への信者の出入りをチェックしておられた。別に警察官も常駐している。

当日は信者約四十名以上が一階の講習室に集まって研修を受けている最中とのことだった。

問題の五階建てマンションのほか計三軒のマンションに合計五十余名の信者が住みこみ、当日の如き研修を続けており、出席者は各地から集まり、献金をつづけ、それが本部の維持費になつているとのことだった。

監視している町会員は、刻々参集している信者の数を把握している模様で、炎天下大変な苦勞であると察せられる。

町総連としては、この研修の



結果を踏まえて、署名運動に続く対応を考えていく所存で、有益な研修会を持つことができた。

町会長交替のお知らせ

平成13年6月30日現在

	町会・自治会名	新会長	旧会長
世田谷地域	池尻東親会	富澤 一夫	斎藤 忠雄
	太子堂4丁目西山町会	萩原 良昭	町田 朝子
	若林町会	根岸 茂	中根 一男
	世田谷東町会	新川 勝二	大場 守蔵
	桜丘1丁目町会	大木 照次	大貫金太郎
	桜丘南町会	番場 壽夫	荒井 芳夫
	下馬1丁目町会	坂入 清嗣	保高 彦二
	上馬・駒沢明和会	井上 忠	内山 武次
北沢地域	代田自治会	柳下 忠男	吉田 茂
	代田4丁目町会	森 公	今津 博
	代田北町会	新妻 金一	土田 正人
	大原西町会	浜中 連生	河野 清定
玉川地域	九品仏自治会	岡 秀俊	奥出 一雄
	尾山台クラブ	能勢 範子	笠貫 篤子
	深沢三友会	秋山真太郎	秋山 満
砧地域	祖師谷第2自治会	空閑 珪吾	森 徳治
	祖師谷団地自治会	青柳 松男	藤田 博志
	千歳船橋郵政自治会	小峰 行夫	夏井 輝夫
	三菱化学千歳船橋社宅自治会	野田 隆	吉良 一樹
	大蔵東部町会	福島 輝雄	安藤 秀明
	岡本自治会	芹田 保次	加賀見貞夫
	清水建設砧アパート自治会	砂山 智子	百々 孝子
烏山地域	烏山中町会	海老澤一良	高橋 岩男
	烏山第1団地自治会	根岸 良輔	三木 邦裕
	給田南住宅自治会	庄 孝子	大川 岳彦
	芦花公園前住宅自治会	徳橋 明	藤倉 良衛
	烏山松葉通住宅自治会	篠宮善四郎	前島 敏男
	烏山北住宅自治会連合会	林 マミ	遠藤けい子
	芦花住宅管理組合	亀山 榮一	佐藤 和子

▶ 4月25日

理事会

1. 平成12年度事業報告並びに決算報告の件
2. 平成12年度会計監査報告の件
3. 平成13年度事業方針(案)の件
4. 平成13年度予算(案)の件
5. オウム対策の取り組みの件
6. 総会の件
7. 永年勤続者表彰の件

▶ 4月27日

町総連だより編集会議

1. 第14号の編集方針の件
2. 第13号の反省点の件

▶ 5月25日

正副会長会

1. 役員の変更の件
2. オウム真理教の世田谷区進出反対署名の件
3. 資源分別回収用コンテナの撤去の件
4. 傷害保険加入問題の件
5. 地域人材活用の件
6. 役員研修会の件
7. 東京都町会連合会総会・表彰式の件
8. 全国自治連合会大会の件
9. 各地域町会連合会総会の日程の件

▶ 5月30日

町総連だより編集会議

1. 教育長、教育次長との座談会(3頁参照)

▶ 6月25日

常任理事会

1. 役員の変更(案)の件
2. 総会の役割分担及びスケジュールの件
3. 町総連情報誌発行の件
4. 永年勤続者表彰の件
5. 役員研修会実施の件
6. オウム対策状況の件
7. 地域人材掘り起こしの件

▶ 6月29日

東京都町会連合会総会、表彰式

総会に引き続き表彰式が行われ、宗 晴常任理事が東京都町会連合会会長表彰を受けました。

▶ 7月10日

町総連だより編集会議

1. 第14号の校正の件

編集後記

☆当会第三代会長白石博氏の勇退記事を書いたため本号の発行を終了して延期した。☆一九八〇の町会長の「地べたを這うような苦勞」を行政に分かって貰いたい、そのためには官側の要望をできる限り受け入れ、具体化して行くのが役目であると自ら信じ、全会員にも情熱をもって説いて回られたことは全員の知るところであり、情報誌もこの方針で指導された。☆幸いに区側との相互理解も進み念願の事務所も用意して頂けるようになったのはひとえに同会長の功績といつて誤りはないであろう。☆昨年末一時体調を崩され急に辞意を表明されるようになった事は大変残念であるが、ご苦勞に感謝するとともに今後も健康に注意され、時折はご意見番としてご叱正を賜りたいと願っている。(渡辺)

お悔やみ申し上げます
太子堂四丁目西山町会会長
町田 朝子 殿
平成十三年二月二十八日没
祖師谷三丁目南町会会長
水島 英夫 殿
平成十二年六月二日没